

# 建設産業委員会

## ■今定例会の審査結果

今定例会では議案「白山平泉寺大門周辺観光振興拠点の設置及び管理に関する条例の制定について」が付託され担当課より詳細な説明と意見を求め慎重に審査しました。

審査の過程において、理事者より一部訂正の申し出があり可決されました。

## 東山いこいの森全体計画について

当委員会は、理事者より提出された東山いこいの森全体計画の概要について去る5月8日、6月4日の両日、建設産業委員会を開催し、整備方針・課題・費用・管理体制・PR活動などの全体計画について審議しました。

その結果、平成25年度3月補正予算に計上された屋根付き広場、五右衛門風呂については、執行を認めるが、



東山いこいの森現地調査

以下の意見を付けました。  
○市内の他の観光施設との連携やインターネットなどの広報の充実により、利用者の増加を図る。  
○シャワー施設整備の必要性は認められるが、それ以外の全体計画に示された整備については、必要性を改めて精査したうえ判断すること。

## 三谷川浸水対策（下水道雨水対策事業）について

平成10年8月、平成13年9月に発生した三谷川流域浸水被害を受けて、平成25年から31年にかけて社会資本整備総合交付金事業による三谷川浸水対策整備スケジュール及び概算事業費（合計7億5千万円）が示され、第1、第3調整池、現川改修、バイパス対策等の説明がなされた。委員からは、調整池費用の削減案や大蓮寺川改修事業との整合性について等の質問がなされ、理事者からは三谷川浸水対策は大蓮寺川改修事業の整備状況により変更の要素があるとのことでした。

## 視察報告

当委員会では、5月に「地域活性化施策」「フィルムコミッションの取り組み」「6次産業プロジェクト」「道の駅」などを調査するため、大分県へ行政視察を行いました。

## ・「昭和のまち」地域活性化対策について（豊後高田市）

豊後高田市の人口は約24,000人。昭和30年代は市内も賑わっていたが、鉄道の廃線や郊外型大型店の進展により、中心市街地は衰退していった。街を調査したところ、その多くが昭和30年代のままの状態が残っていることが分かり、中心市街地に昭和30年代の賑わいを取り戻すため、町の若者が集まり議論を重ね、商店主、商工会議所、市の若手職員たちで「昭和のまち」をテーマに再生していくことを企画した。商工会議所と市はこれを支援し、平成13年に「昭和のまち」がオープンした。具体的な取り組みとしては、建築・歴史・商業・商人の4つの再生を進めており、平成19年には第3セクターの「豊後高田市観光まちづくり株式会社」を設立し商業者・商工会議所、行政と連携し活性化に努めている。

地に残っているものを最大限に活用しながら施設を拡充し、今年40万人近くの観光客が訪



昭和のまち（大分県豊後高田市）

## ・「フィルムコミッションの取り組み」について（宇佐市）

宇佐市は、市のスローガンである「定住満足度日本一」「交流満足度日本一」を実現させるため、市民と協働で市の知名度アップと地域活性化を目的に職員提案により、平成22年5月に行政が運営する非営利団体「宇佐市フィルムコミッション」を設立した。

映画・テレビ・CMなど映像制作の積極的な誘致・支援を行うことにより、市民が地域文化への理解を深める、郷土を愛する人材の育成、ロケPRを通じた観光誘客に取り組んでおられた。今年の夏には、全国随一のカラアゲの町を題材にした「カラアゲUSA」が上映。これにより、商品開発や観光開発などの創出を行っていくと

のことで、担当職員のスキルアップやUSA映画学校での人材育成など積極的な取り組みに感じました。



大分県宇佐市

常任委員会報告

建設産業委員会